

## ウォーカブルKONGO 検討チーム始動！！

ウォーカブルKONGOのブレインになって「金剛駅周辺まちなかウォーカブルビジョン案」をまとめる第1回検討チーム会議を行いました。  
検討チームは市民公募メンバーや金剛地区の自治会、事業者、学識経験者、富田林市、大阪狭山市など金剛地区に関わる20人ほどのメンバーで構成しています。

開催日時：令和6年3月30日(土)  
9時00分～12時00分  
会場：UR管理棟2階集会所  
参加者：23人

### ①ウォーカブルなまちづくりの考え方や事例について（話題提供）

#### 【歩きたくなるまち・魅力的なまちとは】

- ウォーカブルを推進するうえで、「歩きやすい」だけでなく、「歩きたくなる」ことが大切であり、金剛地区らしい「歩きたくなる」要素を考えていく必要がある。
- まちづくりを考える際に「こんなものが欲しい」よりも「こんなことがやってみたい」という事を考えることが大切で、環境は問わず、パブリックライフが充実すれば魅力的な街になる。



大阪公立大学 武田重昭先生

#### 【ニュータウンの居場所づくりの事例】

趣味から入る交流の場が全国的に増えており、単に交流の場をつくったところで人が集まらないことがあるが、趣味を実践する場であれば活用されている。六甲アイランドのホテルの屋上庭園を活用した市民農園「シェラトンファーム」では畑作業を通じて交流が生まれている。

- いきなり大きい空間の活用を考えるのではなく、まずは小さい空間の活用から考えることが大切。福岡県宗像市の日の里団地では、戸建て住宅地への建替えて1棟だけ残った団地の住棟を地域のコミュニティスペースとして活用している。



大阪大学 青木嵩先生

### ②10年後、居心地の良いまち・金剛地区は具体的にどうなっている？(フィールドワーク)

#### 【フィールドワーク・意見交換】

- フィールドワークでは、金剛地区（金剛中央公園、ふれあい大通り、久野喜台1号公園、銀座街商店街）をメンバーで歩き、活用できそうな場所の写真を撮影しながら、10年後に金剛地区で「誰が」×「どこで」×「どういう状況・シーン」が生まれるかを考えました。
- その後、フィールドワークで考えた内容についてグループ内で共有し、10年後に各エリアで実現できそうなアクティビティについて地図に反映しながら、意見交換を行いました。



フィールドワークの様子



意見交換内容の発表の様子

- 各グループで意見交換した内容について発表を行い、「ふれあい大通り」にテーブルや椅子を置いてくつろげるかも？「久野喜台1号公園」に仕事帰りのサラリーマンが立ち寄れる屋台や写真映えるKONGOのモニュメントがあると良い！など、ワクワクする未来の金剛の姿がたくさん出ました。

#### 【発表内容に関する学識者経験者の所感】

- 発想が素晴らしすぎる、出来過ぎていると感じる。また、「こんなものが欲しい」ではなく、「自分ならこんなことができる」という考え方が大切。ウォーカブルKONGOでは、検討チームのビジョン案の検討と推進チームが実施する社会実験の実施内容の検討が組み合わせながら進めていく必要がある。（武田先生）
- 自分がやりたいことに合わせて街を変えていく方が良い。道路や公園、住宅地の境界部分の検討はあまり検討されていないと感じたため、そこの繋ぎ方を長期的に考えていく必要がある。（青木先生）

#### 【とりまとめ】

- 各班から出たアイデアについて傾向が出てきている。駅前周辺は賑わいに寄与するようなアクティビティや通勤、若い人が楽しむアクティビティ、「ふれあい大通り」は多様な世代の憩い、銀座街商店街は住民の交流や賑わい、公園は家族や友人などとの楽しみや憩いに関するアイデアが多く出ていた傾向が見えてきている。今回だけではなく、次回も具体的に各エリアでどんなシーンが生まれそうかを自分基点で考えていきたい。（ダン計画研究所）

次回：第2回検討会 5月18日(土)10時30分～12時 富田林市金剛連絡所

ウォーカブルKONGO 推進チームメンバー募集中！！（募集バ切：5月10日）